

みなさんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

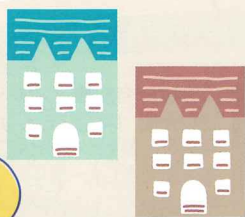
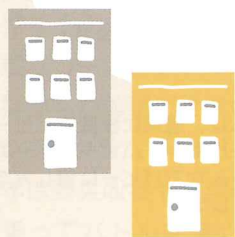
公益財団法人 日本盲導犬協会
発行人 井上 幸彦
223-0056 横浜市港北区
新吉田町6001-9
TEL.045-590-1595
FAX.045-590-1599
<https://www.moudouken.net/>



盲導犬くらぶ

あ!発見!

あなたの街にも 盲導犬



バスにも



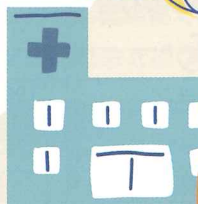
カフェにも



スーパーにも



病院にも



盲導犬と一緒に どこへでも

協会創立から55年、盲導犬は社会に広く知られるようになりました。

あなたの身近にも盲導犬と暮らす人がいるかもしれません。

目の見えない、見えにくい人が笑顔で暮らせる街を、みなさんと一緒につくっていきましょう(12ページに関連記事を掲載)

TOPICS!

主なできごとの中からピックアップ

パピーがつかない絆に感謝して 第13期パピープロジェクト修了式開催

およそ8か月間にわたるパピー4頭の訓練生(受刑者)への委託期間を終えて、島根あさひ社会復帰促進センター(浜田市)で7月4日、島根あさひ盲導犬パピープロジェクト修了式が行われました。

委託当初、命を預かる重さを感じていた訓練生らは、パピーへの接し方もわからず不安があったと言います。パピーが夜中に寝返りを打つ度に目が覚めたり、排泄を失敗するパピーに戸惑ったり……。それでも、パピーの気持ちを考えて試行錯誤するうち、名前を呼べば尻尾を振って



応え、表情も穏やかになっていったと振り返ります。訓練生らは、修了式で「パピーとの関係が深まると共に訓練生同士にも絆が生まれた」と自信に満ちた表情で語り、パピーの幸せを心から願って4頭を島根訓練センターへと送りだしました。

11月から始まる第14期プロジェクトではどんな絆が生まれるのか、期待が寄せられています。

←訓練生らは、週末に家庭でパピーを預かるウィークエンドパピーウォーカーとも協力。みんなでパピーに惜しみない愛情を注ぎました

日本盲導犬協会の歩み 2022.7.1 ~ 9.30

- 7月14日 第4回常任理事会
- 8月19日 第5回常任理事会
- 9月3日 盲導犬慰霊の日(神奈川・仙台・富士・島根)
- 9月16日 第6回常任理事会

→7月8日 青森県中泊町長を地元盲導犬ユーザーが表敬訪問、地域での受け入れなど課題について説明。さらに同県むつ市や陸上町(はしかみちよう)でも首長訪問を実施



↓9月3日 各訓練センターで「盲導犬慰霊の日」開催。1年間に亡くなった犬たち52頭を見送り、関わったすべての方へ感謝の気持ちを伝えました



↑8月23日 BIPROGY株式会社主催のコンサートで、協会職員が訓練犬と一緒に音楽鑑賞。将来盲導犬として想定される環境下で犬たちの様子を観察できる貴重な場です

●各センター活動報告(7月~9月)

(2022年9月30日現在)

	神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター
訓練・視覚障害サポート	共同訓練	2回	0回	0回
	パピーレクチャー	34回	12回	7回
	パピーウォーキング修了式	1回	1回	0回
	ユーザーフォローアップ	24回	20回	17回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	2回	8回	8回
リハビリテーション	各種オンラインセミナー	3回		
	短期リハビリテーション	0回	0回	0回
普及推進活動	その他リハビリテーション	190回(123人)	204回(254人)	19回(12人)
	受け入れセミナー	4回	14回	0回
普及推進活動	小・中学生向け実演	7回	13回	15回
	一般向け実演・贈呈式・募金活動等	11回	25回	25回

メディア掲載件数	
テレビ・ラジオ	21回
新聞	27回
WEB	210回
その他(雑誌など)	1回

主な放送・掲載

- 7月1日 ヤフーニュース他WEB13件 小学校向けオンラインイベント「全国一斉盲導犬教室」開催告知リリース記事を掲載
- 7月7日~10日 岡山放送他TV1局新聞1紙WEB2 岡山駅前で行った街頭募金活動を紹介
- 7月7日~12日 山陽新聞他2紙TV3局WEB4件 岡山県内の小学校3校で行った特別授業の模様を紹介
- 7月20日~23日 青森放送他新聞1紙WEB2 ユーザーと協会職員によるむつ市役所への表敬訪問と市長への支援要請を紹介
- 7月29日 富士ニュース 富士宮市主催「点字教室(小中学生向け)」に協会職員が参加、講話の様子を紹介
- 8月2日 点字毎日他WEB1 英国の盲導犬育成団体Guide Dogs for the Blind Associationが来日、協会との交流や研究発表の様子、協力体制などについて紹介
- 8月10日~24日 ヤフーニュース他WEB66 「協会創立55周年」リリース記事を掲載
- 8月11日 テレビ朝日「ウラ撮れちゃいました」ラブラドル・レトリバーについて、盲導犬として活躍する犬種として協会の訓練風景を紹介
- 9月13日 朝日新聞社 遺贈寄付に関する広告記事を掲載

*協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。

夏の一大イベント in 仙台 「ワン!ぱくっ子サマースクール」3年ぶりに開催

協会は、2003年から夏休みの特別企画として「ワン!ぱくっ子サマースクール」を開催しています。視覚に障害のある小学生とその家族が数組合同で行う活動で、新型コロナウイルス感染防止のため、2020年、2021年は中止を余儀なくされましたが、今年は感染対策を講じたうえで開催しました。7月29日から2泊3日、仙台訓練センターで実施。例年は家族全員での参加も受け付けていましたが、今回は障害児1人につき家族1人のみとし、計12人が参加しました。期間中、親から離れて子供同士でさまざまなプログラムを経験することで、自立心を養い、自分の可能性を再発見することを目的としています。買い物や料理など日常に役立つ生活体験から、カヌーやキャンプ、乗馬など普段はなかなか挑戦できないようなことまで、毎年工夫を凝らしたプログラムを用意しています。

今年には野菜収穫やお菓子作り、花火に加え、専用のボードに乗ってパドルを漕いで水面を進むアクティビティ

「SUP(サップ)」にもチャレンジしました。初対面の人を前に緊張して話せなかった子供も、最終日にはみんなの前でしっかりと感想を述べるなど著しい成長を見せました。事後のアンケートでは全員が「楽しかった」と回答。ひと夏の思い出を作ることができました。家族からは「普段は友達から教えてもらったり手伝ってもらうことが多いですが、今回は(自分から)教えてあげたい!手伝いたい!と積極的な子供の姿が見れてうれしかった」「親と離れて過ごす経験は、子供にとって精神的にも強くなるのだと感じた」などの声が届きました。



↑参加できなかった家族へのお土産にココアクッキーを作り、プレゼント用ラッピングにも挑戦。子供たちは「家でも作ってみたい」「お父さんに食べて欲しい」と胸を膨らませていました



↑SUPでは職員が後ろにつき添いながら大海原へ。当初は怖がっていた子もいましたが、前日レクチャーの成果もあり、全員がボードに立って乗ることができました。波に揺られながらボードに寝転がったり、思い思いに楽しむ様子もみられました

今年実施した
開催レポート公開中!

富士ハーネスから生配信! 子供向けに夏の特別授業を開講しました

毎年、夏休みの自由研究の題材として、盲導犬や視覚障害について調べたいという問い合わせが多くあります。子供たちからのそんな声に応え、7月31日に「夏休み盲導犬教室2022」を開き、盲導犬の役割などについて講演しました。当日は会場の富士ハーネスに約50人、会場の様子を生配信したYouTubeには約150人が参加。YouTubeの閲覧者からも多数の質問が寄せられ、協会はSNSを活用しながらそのすべてに回答しました。

また、富士ハーネスでは毎夏「盲導犬自由研究コンテスト」を開催しています。自由研究などで視覚障害について学んだことをたくさんの人へ配信する場として、

イラスト、レポート、工作などの作品を募集。今年は、YouTubeで見た「夏休み盲導犬教室2022」をきっかけに、アメリカから国際便で作品を届けてくれた子供もいました。

未来の社会を担う子供たちへ、盲導犬や視覚障害について理解を深める機会の創出や提供ができるよう、協会はこれからも教育分野での普及活動に力を入れていきます。



←今年の「盲導犬自由研究コンテスト」には過去最多の74作品が寄せられました。富士ハーネス館内に10月31日まで展示中です。優秀賞は富士ハーネスホームページにて発表、ぜひチェックしてみてください

見えない、見えにくい人を 誰ひとり取り残さないために ～視覚障害リハビリテーション協会が 第30回研究発表大会開催～

2022年7月の3日間、視覚障害リハビリテーション協会主催の第30回研究発表大会が名古屋で行われました。大会のテーマは「未来を語ろう！～誰一人取り残さない！視覚リハのSDGs～」です。ロービジョン段階からの早期支援、ICT活用による視覚サポート、情報アクセス環境の整備など多岐にわたる発表を軸に活発な交流が行われました。

また、大会会場に併設された視覚障害者向け生活用具・機器展示会では18社/団体の展示ブースが設けられ、視覚障害者向けの白杖、ルーペ、遮光メガネ、ナビゲーションシステムなど最新の機器が展示されました。協会も出展して盲導犬の体験歩行を実施。

3年ぶりの開催で延べ来場者600人を超えた大会当日の様子を、協会職員からの発表を中心にレポートします。

もっと知って！ 盲導犬



協会は会場に盲導犬歩行体験ブースを設置して来場者を迎えました。「盲導犬取得についてのパンフレットを病院内に常設したい」「盲導犬について学ぶ機会がないが、目指す視能訓練士になるには必要な知識。知ることができて良かった」などの声が寄せられました。視覚リハ関係者の間でも盲導犬やユーザーへの理解がまだ十分ではない現状で、今回のような機会は理解促進と連携強化に有効といえます。



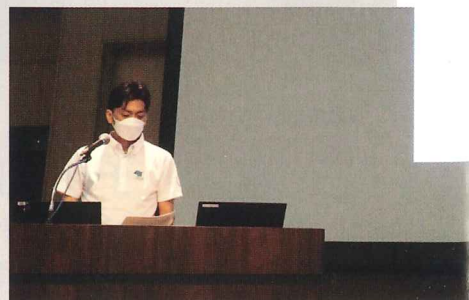
視覚リハの未来って？

有志により1992年に発足した視覚障害リハビリテーション協会（以下、リハ協）は設立30周年を迎えました。今年の大会のシンポジウムは「医療・福祉・教育・児童各分野における30年間のマイルストーン」がテーマ。リハ協設立に関わった当協会の坂本洋一評議員による講演「視覚リハ協会30年の歩みと未来」をはじめ、多くの医療関係者や福祉関係者が発表を行ったほか、ディスカッションでは第一線で視覚リハに取り組んできた専門家らが意見を交わしました。座長の一人、堀江智子視覚障害サポート部職員（富士ハーネス）は「リハ協は模索し、課題解決しながら30年間を積み上げてきました。一方で、高齢化やICT化によって取り残されてしまう視覚障害者の方もいます。リハ協のみなさんと引き続き取り組んでいきたいと思えます」と話します。



視覚障害者の防災

山田大訓練士（島根あさひ訓練センター）は「防災への取り組み事例報告～誰もが取り残されず、安心して避難できるように」と題して、広島市消防航空隊と連携した、災害時におけるヘリコプターでの視覚障害者と盲導犬の救助活動に関する4年間の取り組みや、島根県浜田市による防災訓練で行った、避難所での受け入れに関する理解促進活動を発表し、注目を集めました。会場では熱心な活動に感嘆の声が上がり、視覚リハ分野にとどまらず広く連携に取り組む必要性があらためて認識されました。



↑山田職員「(視覚障害者目線とは言えない社会の現状に対して)最新の技術で取り組むアプリ開発企業も会場で見受けられ、視覚障害者が一層生活しやすい状況が整ってきていると感じました」

←シンポジウムで座長を務めた堀江職員「視覚障害支援に関わり始めたばかりの20代の参加者のみなさんにとって、きっと支援や研究の力になるはず。大会で第一線の専門家に何でも聞いて、ご自身の地域に持ち帰って業務に活かしてもらえたら、視覚障害支援は必ずやレベルアップしていくと思うので、がんばりましょう！」とスピーチ



←第30回リハ協研究発表大会（2022年7月15、16日名古屋国際会議場で「医療・福祉・教育・児童各分野における30年間のマイルストーン」をテーマに行われたシンポジウムの様子

20年続く「短期視覚障害リハビリテーション」の新たな取り組み

笹山夕美絵視覚障害サポート部職員（仙台訓練センター）は、「短期視覚障害リハビリテーションでの遠隔ロービジョンケア」と題して、2002年から取り組んでいる宿泊型プログラムを紹介しました。プログラム中で注目を集めたのは、専門医によるオンラインでのロービジョン相談です。2021年からプログラムに組み込んだもので、病院診療ではじっくり話を聞けないなど不満があった利用者からも「30分間限定ながらリラックスして医師と話せる」「見え方に合った視覚リハ活用のアドバイスがもらえる」と満足の声が聞かれることを報告しました。

↓笹山職員「同じ志を持って活動している方がこんなにいるんだと改めて実感しました。(会場で出会った方との)ふとした雑談の中から新たな気づきも生まれます」と手応えを語ります



情報アクセシビリティへの提言

押野まゆ広報・コミュニケーション部職員（富士ハーネス）は「視覚リハ自分ごとプロジェクト～視覚リハの今日的課題」として発表を行いました。当事者視点から、視覚障害者用の画面読み上げソフトがPDFや画像認証などに対応していないこと、障害者のICTスキル向上に必要なサポート体制が不十分であることを指摘。一方で望ましい合理的配慮の事例として、富士宮市が音声CDや点字など個々が希望する方法で情報提供を行なっていることを紹介しました。

また「視覚障害者が利用可能なデータベースの整備」に向けた協会の取り組みをポスターで発表



↑押野職員「会場さまざまな立場の人と話し、今後の広報を考える良い機会になりました。視覚障害者が働くうえでの工夫やICTアクセシビリティの重要性について、もっと広く知らせたいです。ICT担当と当事者職員が情報交換し、連携することで課題を解決できると思います」

し、就労支援関係者から関心を集めたほか、スマートフォンを使ったグループウェアの実演では「職場でデジタル化の動きがあり、参考にしたい」との声も聞かれました。

前述の堀江職員からは「富士宮市役所をコーディネーターとした見えにくい人の相談をつなげる地域づくり」のポスター発表が行われました。富士宮市と協会は、市民向けに市役所で毎月相談会を開いており、これを行政と連携したワンストップ相談の仕組みとして報告しました。

視覚障害 リハビリテーション協会と 日本盲導犬協会

視覚障害リハビリテーション協会には、福祉・教育・職業・医療等の分野で視覚リハに関心をもつ人が参加しています。年1回の研究発表大会には、視覚リハに関わる多くの人が集まって交流を図り、それぞれの活動成果を発表します。

日本盲導犬協会は、中長期計画でSDGsに沿った視覚リハ事業の拡充に力を注いでおり、リハ協の事務局としても一翼を担うなど関係を深めています。現在、協会の堀江職員と金井政紀視覚障害サポート部管理長の2人がリハ協の理事として貢献しています。協会は今後も、リハ協と連携しながら視覚リハ事業の充実を図っていきます。

世界をリードする 盲導犬育成団体へ

視覚に障害のあるすべての人に、安全で快適な盲導犬との歩行を提供し続けるには、各国団体が協力し、より安定した盲導犬の育成体制をつくる必要があります。協会は今年4月に新部署を設置、国際連携に一層力を注いでいきます。

新設された 国際部を中心に 海外の育成団体を歓迎

2022年7月、イギリスの盲導犬育成団体GDBA (Guide Dogs for the Blind Association) が協会を訪れました。3日間で神奈川訓練センターの訓練犬や繁殖犬の様子を見学し、協会のユーザーやボランティア、職員との交流を通じて相互理解を深めました。2014年以降、GDBAから繁殖犬3頭をもらい受けてきましたが、コロナ禍で状況が一転。厳しいロックダウンによる育成休止で繁殖犬不足となったGDBAから相談を受け、今回の来訪につながりました。今年度中には繁殖候補犬4頭をGDBAに譲渡します。協会は、これまでも海外諸国との間で凍結精液や繁殖候補犬を授受してきましたが、イギリスへの譲渡は今回が初めてです。

海外との関係づくり 90年代から着々と

協会の海外連携は、1997年にIGDF (International Guide Dog Federation: 国際盲導犬連盟、1989年設立) に加盟した頃から本格化。IGDFは33



↑今秋、アメリカの盲導犬育成団体から繁殖候補犬として1歳のハイジが来日しました
←今年7月、イギリスの盲導犬育成団体職員2人が来日。和やかな交流が国際連携を推進します

か国、約100団体から成る盲導犬育成団体の最大ネットワークです。質の良い盲導犬を維持するため、加盟団体は訓練や職員育成、運営などの審査を5年ごとに受けています。

2004年以降は協会からIGDF理事を輩出。2021年9月には田上理事がIGDF理事に就任、同財務委員長も兼任しています。IGDFの公用語は英語ですが、全体の6割を占める英語圏以外の加盟団体の視点を考慮し、平易な英語を使うよう理事会に進言するなど、田上理事は多様な加盟団体間を円滑に束ねる役割も果たしています。

訓練分野での連携も

協会では、訓練士の技術向上や良質な盲導犬の継続的育成のため、海外からの新犬種の採用も活発化させています。直近では2021年にアメリカの盲導犬育成団体 (Freedom Guide Dogs) からスムース・コリー2頭、

2022年1月にはドイツの盲導犬育成関係者からラブラドル・レトリバーとスタンダード・プードルを掛け合わせた犬種2頭を訓練犬として導入。過去には、シェパード犬の訓練や盲ろう者 (視覚と聴覚の両方に障害がある人) への歩行指導の研修を受けるために協会職員が渡航したこともあります。

国際部は、協会ホームページにて活動内容を月に1回英語で発信したり、IGDFによるセミナーの内容を翻訳して協会職員へ提供するなど、積極的に取り組んでいます。コロナ収束後は、海外ユーザー来日時に必携の「海外補助犬使用者期間限定証明書」の発行にも再び力を入れ、国内外のユーザーが日本と海外を行き来する際の入国サポートや滞在中のフォローなども行っていきます。

JGDA will continue to reach beyond national borders! (日本盲導犬協会は、国境を越えて活躍の場を広げていきます!)



↑2014年春、協会がホスト団体となり、日本で初めてIGDFカンファレンス (2年に1度開催される全体会議) を開催。世界23カ国から盲導犬育成に関わる289人が集まりました

盲導犬育成を支える ボランティア LIFE

イギリスから来たゴールデン デクスターがくれたさまざまな「縁」

神奈川訓練センター
繁殖犬飼育ボランティア・井口さん一家 (神奈川県藤沢市)

もともとはキャリアチェンジ犬飼育ボランティアを希望していた、井口雅美さん。当初は繁殖犬飼育ボランティアのことを知らなかった雅美さんですが、協会からの電話でその存在を知ること。「家庭犬と同じように生活できる」「繁殖の仕事があるときに協会へ連れて行けばよい」と聞き、「それならできるかも」と興味を持ちました。家族で協会へ説明を受けに行ったところ、全員が「協力したい」と賛成。デクスターを迎えることになりました。

デクスターと初めて会うまでは、「オスの子が来る」ということしか知らなかった井口さん一家。そこに姿を見せたのは、イギリス出身の真っ白なゴールデン・レトリバーでした。驚きながらも、小太郎さんとこのみさんは「かわいい」と一目ぼれ。しかし一番喜んでいたのは、「ゴールデン・レトリバーを飼うことが夢だった」という、貴寛さんだったかもしれません。帰りの

車の中で、家族みんなが大喜びでした。

オスの繁殖犬を預かった場合、協会の交配計画に合わせて、犬を訓練センターへと連れていきます。交配の際は、例えば、1週間のうち数日間、センターへ繁殖犬を連れていくことも。2021年夏には、デクスターにとって初となる7頭の赤ちゃんが誕生しました。一家全員で生まれた赤ちゃんを見に行った際には、本当に幸せな気分になりました。

普段のデクスターは家族の一員として生活していて、優しく人が大好き。「なでて〜」と背中を寄せて甘えてきます。特にこのみさんとはいつも一緒に、デクスターはまるで3人目の兄弟のよう。このみさんが悲しいことがあって沈んでいるときは、そっと寄り添ってそばにいてくれます。

繁殖犬飼育ボランティアとして雅美さんは、デクスターの体調管理やけがの予防などに日頃から気を配っています。「ちょっとした変

↓いつも一緒に2人。雨で散歩に行けないときは、家の中にデクスター用の迷路を作って遊ぶなど工夫を凝らします



↑子供たちは庭と家の中をつないで「鬼ごっこ」。普段、小太郎さんは粘着ローラーで「コロコロ隊」として掃除を、このみさんはご飯やブラッシングを担当。並ぶとまさに3人兄弟



↑デクスターのお散歩は、平日は雅美さん (中央)、土日は貴寛さん (右) と、家族での交代制。小太郎さん (左) やこのみさん (下) がお世話に加わることも。ボール遊びが大好きなデクスターは、浜辺を走ったり砂を掘ったりと、海に連れていくと大喜びです

化も見逃さないこと」が大切だと言います。「大変そうにみえると思いますが、不安なときはすぐ協会の担当者さんに相談できるので、苦ではありません」

デクスターがいろんな縁をつないで、たくさんの幸せを運んでくれた」と話す雅美さん。貴寛さんの夢だけでなく、「訓練士になりたい」という雅美さんのかつての夢も、ボランティアという形でデクスターがかなえてくれました。「ここまで楽しいボランティアはない」と雅美さん。「デクスターとの時間を大切にしつつ、少しでも盲導犬育成の助けになれば」と、笑顔で話してくれました。



スタートライン

Start Line

みなさんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2022年
8月までの
共同訓練
卒業生

●各ユーザーの紹介項目

- ユーザー名・所在地(盲導犬歴)
- 盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種
- ①共同訓練期間
- ②パピーウォーカー名
- 犬種記号
- LR: ラブラドル・レトリバー
- GR: ゴールデン・レトリバー

神奈川訓練センター

持ち前の積極性を生かして 初めての盲導犬エーデルと楽しむ日々

視力低下が加速し、白杖歩行では電柱や車などに身体をぶつけてしまうことが増え「盲導犬がいたら、避けてくれるのかな」と思うようになった本田さん。4年ほど前、初めて協会に問い合わせをするも、当時住んでいたマンションのオーナーから「動物は不可」と言われ、あえなく盲導犬歩行を断念。結婚を機に引っ越しをしましたが、新居周辺には似たような道や建物が多く、白杖で住環境を把握するのに時間がかかり、苦勞しました。

その後、協会から盲導犬貸与の連絡をもらい、共同訓練がスタートしました。初めてエーデルを紹介された時、訓練士がリードを離れた瞬間にエーデルは本田さんのもとへ目散。実は訓練が始まる前に一度、協会の犬と体験歩行をしたことがありました。その時の犬が偶然にもエーデルだったので、「自分のことを覚えてくれていたようで、とてもうれしかったです」



←排泄処理中の本田さん。共同訓練中は排泄リズムが一定せず、苦勞しました。ほかの犬がいると気を取られて排泄しないエーデルも、場所を変えてみると見事に改善。現在もフードに水を加えたり、1日数回水飲み場へ促すなど工夫しています

共同訓練1週目は“エーデルと”歩いてみる訓練で、一緒に公園などへ行きました。2週目からは“エーデルで”歩く訓練に移り、ハーネスの持ち方やエーデルとの距離、立ち位置など技術的なことを踏まえて、「より安全にエーデルと歩くにはどうしたら良いのか」を考える日々でした。本田さんは先天性の弱視で10代の頃には視力が急激に低下しましたが、親の教育方針から「親が亡くなった後、一人になっても生きていけるよう、いろいろなことをやらせてもらった」と言います。経験を積む中で、さまざまな状況を想定して能動的に考えて動く姿勢が自然と身についたという本田さん。共同訓練でも「訓練士が細かく目標を設定してくれたことで、やるべきことを逆算して考えられ、相談しながら実践することができました」

初めての共同訓練を無事に終えた本田さんには大きな目標がありました。それは、好きなアーティストのライブにエーデルと一緒にいき、楽しむこと。昼間に開場されるライブだった



本田 武さん
東京都練馬区
(1頭目)

エーデル (♂) LR
①2022.6.13 ~ 7.7
②吉澤 達也さん

↑エーデルは電柱などをしっかり教えてくれるので「白杖歩行に比べて精神的な負担が減りました。一人ではないという思いでエーデルの目を頼れることがとても心強いです」

ので、暑さを避けられるルートを事前に確認しました。また、ライブ中にエーデルが安心して待機できるよう、カラオケに行って音に慣れさせたり、自宅でアーティストの曲を流すなどして備えました。当日、ライブ開始から30分は少し落ち着きがなかったエーデル。しかし、その後は聞き覚えのある曲に興味を持ったのか、ステージをじっと眺めていました。後半にはすっかり伏せて休んでおり、本田さんも安心してライブを楽しむことができました。「秋冬にあるライブにも、安心してエーデルと参加できそうです。楽しみなことがこれからたくさん待っている」と心を躍らせています。

共同訓練は思うようにいかず落ち込む日々。ユーザー側にもスキルが必要であることを痛感しました。今は、朝夕の散歩、通院やお稽古ごと、神社詣りと出歩いています。いつでもどこにでも喜んで一緒に歩いてくれるアニーがそばにいるので、



楽しく心強い毎日です。甘えん坊なのに空気を讀んだり、凛々しさも併せ持つアニーの歩く姿をたくさんの人に見てもらいたいです。これからも焦らず、少しずつ心を通い合わせて、アニーと歩んでいきます。

奈良 章子さん
前橋市(1頭目)

アニー (♀) LR
①2022.6.13 ~ 7.12
②木崎 久美さん

愛沢 法子さん
東京都調布市
(3頭目)
キノ (♀) LR
①2022.5.23 ~ 6.3
②安友 政男さん



キノは自分からハーネスに入るのは少し苦手ですが、ひとたびハーネスをつけると一気にやる気満々に！におい嗅ぎもなく、慎重に歩いてくれています。二人の心が合った歩行ができたときは、本当に楽しいです！家に帰るとキノは、仕事を終えた満足感からか、部屋中を走り回るので、我が家の絨毯はボロボロです(笑)。共同訓練を終えて3か月。キノもすっかり生活に慣れてきたので、これからはさまざまなところへ一緒にお出かけしたいです。

富士ハーネス

青木 きみ子さん
愛知県丹羽郡
(3頭目)
テンダー (♂) LR
①2022.5.30 ~ 6.15
②山本 未来さん

初対面のときは、テンダーの人懐っこい性格に、まるで長い間ずっと一緒にいたかのような感覚に。家の中でも私のそばにいつもいて、離れたときは指示が出るとまで伏せて待っています。テンダーのもとへ戻ると私の周りをくるくると回り、喜んでくれます。歩きやすい速度で、落ち着きもあり、テンダーとの歩行はとても楽しいです。現在は自宅周辺だけですが、今後はほかのコースを歩いたり、電車にも一緒に乗ってみたいです。

仙台訓練センター

高橋 恵美子さん
仙台市(3頭目)
ヘリオス (♂) LR
①2022.6.6 ~ 6.21
②石川 かおりさん



3頭目となるヘリオスは、繊細でとても甘えん坊。指示への反応が速いので、集中して歩いている様子が伝わってきます。訓練士から教えてもらったことを意識して歩くと、ヘリオスとの歩行が安定すると実感。快適に楽しく出かけられています。それは、これまでの歩行経験やその中での失敗があったからこそで、今までのパートナーとも一緒に歩いているような気持ちになります。これからも、ヘリオスのことや歩き方を研究していきます。

心がふれあう

Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め
盲導犬ユーザーが生き生きと
安心して暮らせる社会を目指して
心のバリアフリーを広げる活動を紹介しす

お客様と共に支援をつなぐ 西武・そごう、盲導犬育成支援20周年



◀実物大募金箱「ラブちゃん」を囲んで、そごう大宮店盲導犬育成支援活動のインフォメーション推進メンバー。メンバーたちは「支援活動を通じて多くのお客様にご支持されていると感じています。今後もしっかりと継続していきたい」と意欲的です

頭にイベントスペースを設け、盲導犬デモンストレーションや盲導犬との体験歩行を行い、来店者をはじめ広く一般へ盲導犬理解の輪を広げてきました。

● 従業員の一人ひとりが
● 支援の歴史をつくる

● 2003年スタート！ ● 百貨店から届ける支援

百貨店を展開する株式会社そごう・西武は「みんなのやさしさ、つながりたい。」という想いのもと、長年にわたり社会貢献活動に取り組んでいます。2003年に盲導犬育成支援をスタートさせ、今年で支援20周年を迎えました。

当初は、全店舗の店頭で盲導犬型の実物大募金箱を設置するという斬新なアイデアで多くの方の関心を集めました。百貨店でのこうした取り組みは当時まだ珍しく、まさに先陣を切った活動でした。それぞれの募金箱には、お客様からの応募により選ばれた名前が付けられています。穏やかな表情の盲導犬型の募金箱は、多くの人々から親しみを持って愛称で呼ばれ、愛され続けています。

また、全国の店舗で年2回「盲導犬キャンペーン」を実施。百貨店の店

支援スタート時の2003年、労働組合と共同で「ワン！コイン倶楽部」が立ち上げられました。従業員が毎月の給与から自動引落で積み立てて寄付を行うものです。一人ひとりの思いのつまった寄付は、店頭募金とあわせて20年間で累計7億円以上となり、当協会を含む9つの盲導犬育成団体へ届けられました。

また、視覚障害のある来店者に安心してお買い物を楽しんでもらいたい、と従業員を対象とした「盲導犬受け入れセミナー」も実施。ユーザーへの積極的な声かけやサポート方法について、協会職員が講習を行っています。

➡2009年に行われた、そごう横浜店での「盲導犬キャンペーン」の様子。多くの方が盲導犬について知る機会を提供しています



● 時代に合わせた ● 新しい取り組みへの挑戦

コロナ禍では、こうした店頭活動が軒並み中止となりました。それでも、そごう大宮店では本物の盲導犬の代わりに実物大募金箱を集結させたり、理解を深めるためのパネル展示を行うなどニューノーマルなキャンペーンを展開。他店舗でもそれぞれ工夫を凝らしながら、支援を途切れさせないよう活動しています。

2020年には買い物で貯まるマイルを利用して寄付をする「セブンマイル募金」を活用し、一般からキャッシュレスでも寄付ができるようになりました。また、SNSを活用した支援キャンペーンを行うなど、時代に合わせた新たな支援の形にも挑戦しながら、誰もが取り組める活動を続けています。

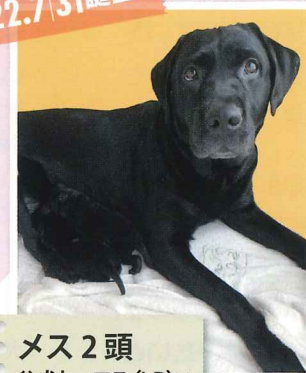
今年には盲導犬育成支援「20周年キャンペーン」として、一段と精力的に支援を展開中です。西武・そごうからの20年にわたる熱い支援に応えられるよう、協会も全力で事業を推進していきます。

生まれました



オス7頭
メス4頭
父犬キューイ(LR)×
母犬アレック(LR)

2022.7.31誕生



メス2頭
父犬トーマス(LR)×
母犬ファミリー(LR)

2022.8.21誕生



オス4頭
メス3頭
父犬ウィンドム(LR)×
母犬ヴァトン(LR)



オス2頭
メス2頭
父犬ユオン(LR)×
母犬ティンカー(LR)

2022.7.25誕生

みなさんに 支えられて

6月11日～9月10日

犬種記号
LR/ ラブラドル・レトリバー
GR/ ゴールデン・レトリバー

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
フク♂	千葉 和也さん	-	2022.1.28
キミー♀	井上 信雄さん	井上 直之さん	2022.6.11
エルモ♂	大鷹 哲也さん	大竹 国仁さん	2022.6.16
アリス♀	繁殖引退犬	石井 明さん	2022.6.16
ホタル♀	矢野 裕子さん	木村 育美さん	2022.6.17
ムース♂	酒井 みどりさん	小林 利道さん	2022.6.20
ピュア♀	繁殖引退犬	野宮 秀樹さん	2022.6.24
マリン♀	愛沢 法子さん	国本 信江さん	2022.7.21
イール♂	阿部 まりさん	鎮目 昇さん	2022.7.31
オニール♂	安達 明香さん	武智 延良さん	2022.8.7
ティンカー♀	小川 守さん	佐藤 信行さん	2022.8.15
クロス♂	須貝 守男さん	長田 和子さん	2022.8.25
オーブ♀	市瀬 英子さん 市瀬 實さん	藤田 沙知子さん	2022.8.31
ケント♂	高橋 恵美子さん	渡辺 道子さん 日下 哲夫さん	2022.9.2
ルナ♀	繁殖引退犬	窪野 久美子さん	2022.9.4

委託しました

父犬	母犬	ユーザー名	ボランティア名	引退日
父犬ユオン(LR)× 母犬ダイナ(LR)	ウエル♂	塚本 竜美さん	-	-
父犬キューイ(LR)× 母犬アレック(LR)	ウニカ♀	井上 麗子さん	-	-
父犬ユオン(LR)× 母犬ティンカー(LR)	ウパム♂	島村 一秋さん	-	-
父犬ユオン(LR)× 母犬ティンカー(LR)	ウリ♀	石黒 雅彦さん	-	-
父犬ユオン(LR)× 母犬ティンカー(LR)	ウミ♂	赤岡 明さん	-	-
父犬ユオン(LR)× 母犬ティンカー(LR)	ウヅキ♂	木崎 久美さん	-	-
父犬ユオン(LR)× 母犬ティンカー(LR)	ウノ♂	酒井 勝利さん	-	-
父犬ユオン(LR)× 母犬ティンカー(LR)	ウル♀	二瓶 津多子さん	-	-
父犬ライオン(GR)× 母犬ポピン(GR)	ウイヴィアン♀	大城 惟克さん	-	-
父犬ライオン(GR)× 母犬ポピン(GR)	ヴェスパー♂	吉澤 達也さん	-	-
父犬ライオン(GR)× 母犬ポピン(GR)	ヴィスタ♂	堀田 晶子さん	-	-
父犬ライオン(GR)× 母犬ポピン(GR)	ヴェーラ♀	勢万 一哉さん	-	-
父犬ライオン(GR)× 母犬ポピン(GR)	ヴォノ♂	竹内 利春さん	-	-
父犬ライオン(GR)× 母犬ポピン(GR)	ボルボ♂	佐藤 祐子さん	-	-

引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
ジップ♂	佐々木 育子さん	調整中	2022.8.3
ラン♀	大東 章さん	調整中	2022.8.22
ハッピー♀	藤山 美枝子さん	-	2022.8.31
ユーゴ♂	永沢 淳さん	調整中	2022.9.9
ラキ♂	石津 峰夫さん	調整中	2022.9.9

盲導犬育成状況

合計頭数...719頭(2022年10月4日現在)

委託前パピー	パピー	訓練犬	盲導犬	繁殖犬	PR犬	引退犬	繁殖引退犬
8頭	89頭	81頭	248頭	50頭	18頭	169頭	56頭

みなさんと協会をつなぐ

ハーネスひろば



みなさんから届いたメッセージや協会からのお知らせなどを紹介します

創 立55年、おめでとうございます！2004年から『盲導犬くらぶ』を拜見しています。50周年を迎えた2017年発行の88号も取ってあります！心がほんわかしたり、理解されないケースを読んで憤ったり、支えるすべてのみなさまの思いを想像したりと毎号楽しませていただいています。細くても、できるだけ長く、これからも応援したいです。

東京都 KYさんより

テ ネシーは、我が家にやってきた3頭目のパピー。テネシーがやってくる前、父の介護でパピーウォーカーをお休みしている間にサックス教室に通い始めました。教室はショッピングセンターの楽器店の中にあるので、テネシーがお留守番できるようになるまでは休みたいと相談しました。すると「盲導犬になるかもしれない犬だとわかるようにしてくれればぜひ一緒にどうぞ」と、まさかの展開に。今は協会から借りているシャツを着せ、ペットカートを使い通っています。周りの方も温かく、人見知りで場所見知りなテネシーも、遊んでくれる先生に尻尾を振ってお腹を出すように。レッスン中は私の下手なサックス音にも動じず、おとなしくしています。この受け入れに感謝するとともに、このような施設が増えていくためにもマナーには気を付けていきたいと思えます。

東京都大田区 岩田紀子さんより

編集室より

私たちは、半世紀以上にわたり「目の見えない人、見えにくい人が、行きたい時に、行きたい場所へ行くことができるよう」事業を運営してきました。盲導犬は、不特定多数の人が利用する施設などへのユーザーとの入場や入店が、法律により認められています。ユーザーから受け入れ拒否にあったと相談を受けることもあります。一方で訪れたカフェや病院などで“特別扱い”ではなく自然に対応してもらい、うれしかったという声も届きます。55周年を迎え、これからも、すべての人が笑顔で共に生きる社会を、みなさんと一緒につくりたい…そんな想いを込め、今号の表紙を制作しました。

8月10日の創立記念日には、盲導犬の歴史や協会事業の詳細情報などを配信。QRコードより、ぜひ配信内容をご覧ください。



●『盲導犬くらぶ』の感想やご意見、盲導犬との出会いやエピソードなどを盲導犬くらぶ編集室までぜひお寄せください。1通1通のお便りが私たちの大きな励みとなります。

●あて先
公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267
email:info@moudouken.net



アキバ AKIBA FUCOIDAN
アキバ フコイダン

秋葉薬品は
日本盲導犬協会を応援しています。

秋葉薬品株式会社
tel.03-5577-5645
akibayakuhin.com/fucoidan/





無理なく、続けられる

ナチュラループラス®

The Global Healthcare Company

私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。

株式会社 ナチュラループラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F
TEL 03-6230-3311 FAX 03-6230-3011 URL <http://www.naturally-plus.com>






intage
Know today, Power tomorrow

株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ
<http://www.intage.co.jp/>



キューモニター募集
<https://www.cue-monitor.jp/>



お客様からご注文いただいた商品1袋につき1円をいちえん あいきん『一縁のeye基金』として積み立て、その一部を盲導犬育成支援に活用しています。

あなたから始まる次代への健康物語

わかさ生活

WAKASA